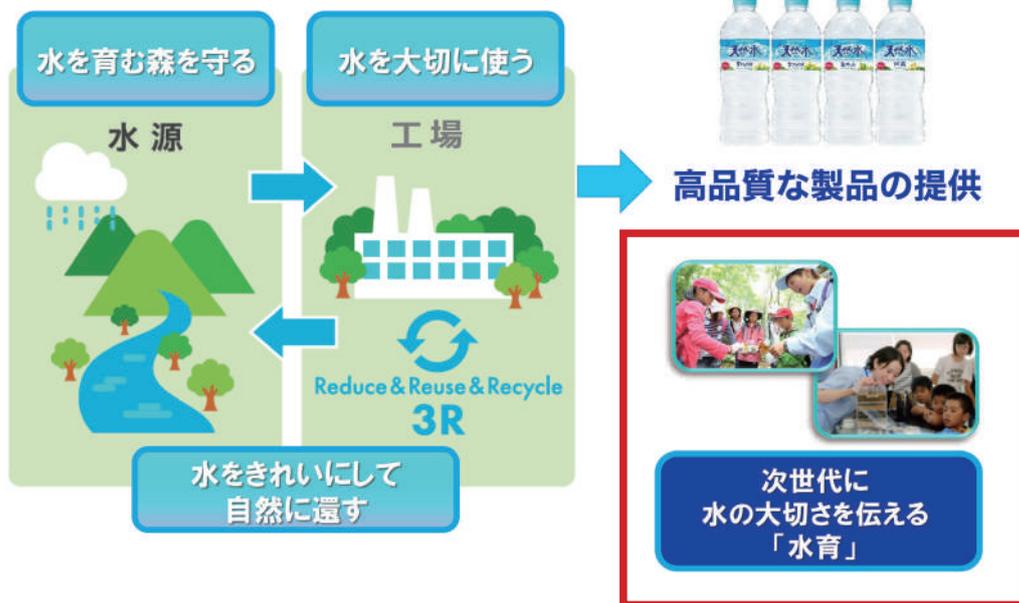


思いを次世代に伝える「水育」



いちばん大切なものを未来へ 次世代環境教育「水育」

JEEFの賛助会員としても支えていただいているサントリーホールディングス株式会社は、飲料メーカーとして幅広い環境活動を展開されています。その中でも「天然水の森」の活動と次世代環境教育「水育（みずいく）」について、同社サステナビリティ推進部課長市田智之さんと専任課長森揚子さんに伺いました。

— サントリーは「人と自然と響きあう」という企業理念のもと、「水と生きる」を社会との約束に掲げています。水についての想いを教えてください。

1899年の創業以来、各地の工場で飲料を製造販売しています。水を使って飲料を作るので、良質な地下水がサントリーの生命線となります。水は重要な原料であり、貴重な共有資源という考えのもと、「水理念」を掲げ、水を育む森を守る活動を展開しています。

水理念

- 1 水循環を知る
- 2 大切に使う
- 3 水源を守る
- 4 地域社会と共に取組む

<天然水の森>整備目標

- 1 水源涵養林としての高い機能を持った森林
- 2 生物多様性に富んだ森林
- 3 洪水・土砂災害などに強い森林
- 4 CO2吸収力の高い森林
- 5 豊かな自然と触れ合える美しい森林（次世代環境教育などのフィールドとして活用）

日本全国のサントリー工場周辺の森21か所・山手線内側の約2倍相当の12000haを「天然水の森」として守り育てています。森の現状を調べ（R：リサーチ）、50年100年後の姿をイメージして計画（P：プラン）、実行（D：ドゥ）、確認（C：チェック）、行動（A：アクション）する、R・P・D・C・Aサイクルを実施しています。計画に基づいて道作りや間伐、獣害対策を行っています。

聞き手：吹留 純子（JEEF）

——「天然水の森」がそんなにたくさんあるとは知りませんでした。その中で、「水育（みずいく）」をスタートされたのですね。

「水育」は、子どもたちが、自然のすばらしさを感じ、未来に水を引きつぐために何ができるのかを考える、次世代に向けたプログラムです。小学3～6年生と保護者を対象にした「森と水の学校」と、小学4、5年生を対象に学校の授業単元として行なう「出張授業」が柱となっています。「水育」は、これまでに20万人を超える方々に参加いただいています。

「森と水の学校」は2004年、前年に「天然水の森」の第1号となった熊本・阿蘇からスタートし、山梨・白州、鳥取・奥大山と広がり、山梨、鳥取、熊本の三か所で開校しています。

当初は子どもだけの宿泊プログラムなども行なっていましたが、もつと親子で水について深く学んで頂きたくて、親子日帰りコースと

水育「森と水の学校」



「森と水の学校」奥大山校の様子



サントリー天然水 南アルプス白州工場
「森と水の学校」プログラム中の工場見学の様子



しました。親子で参加しやすい夏休みに開催しています。プログラム運営、安全面の強化、環境教育の知見などさまざまな専門家の方々にご協力頂いています。

——「森と水の学校」のプログラムで、大切にしていることを教えてください。

子どもたちに「森を守ることは水を守ること」であると知ってもらいたいと思っています。「サントリー天然水」のふるさとの大自然の中で、森の探検や水に触れる体験を通して、水の大切さや、水を育む森や自然の大切さを、親子で体感します。

導入では水はどこからやってくるかを考えてもらい、自然の中に入っていきます。たくさんの生き物に出会ったり、ふかふかの土を体験した上で水を育む自然のしくみを実験で確認します。その後工場では、自然の恵みが製品になる様子を見学します。まとめとして自分で

きることを考えてもらいます。

「森と水の学校」では、自然体験を重視して、安全最優先に、それぞれの地域の皆様と連携して、一緒に活動を進めています。

——2020年からはオンラインで開催されたのですね。

コロナ禍の中でも、子どもたちに自然に触れる機会を提供したいと思い、2020年からオンラインの活動も開始しました。

「森と水の学校」のオンライン開催は、2020年10月からスタートし、2021年夏には本格稼働し、44回開催、約2000名の親子に参加いただきました。

また「出張授業」も、オンライン授業と対面授業と、学校の要望にあわせて実施しています。

——オンライン化して良かった点を教えてください。

自宅から気軽に参加できる点、

オンラインならではの鳥の目線や虫の目線の映像を見ながら、スタジオの講師と双方向のコミュニケーションができる点と考えます。

「森と水の学校」はオンライン化により46都道府県からご応募頂きました。「出張授業」も、オンライン化することで対面時の倍以上の31都道府県で実施することができました。

「森と水の学校」の参加者の声

●対面実施

- ・学校や親では教えられない学びを得た
- ・子どもが喜んでいたら
- ・親自身の学びになった

●オンライン

- ・日本全国から・遠隔地から参加できた
- ・映像の工夫等で大人も楽しめた
- ・森の中にいるような感じ

「水育」は今後も、対面とオンラインのハイブリッドで活動を展開してまいります。



「森と水の学校」プログラム オンラインを受講する親子



サントリー 次世代教育「水育」のウェブサイト

——「水育」を通して子どもたちにどうなってほしいですか。

「水育」は一つのきっかけであり、これで全てが変わる訳ではありません。我々大人ですが、子どもたちが大人になってからも、水の大切さや自然を守る大切さを考え続けてほしいと思っています。

——私たちJEEFにできることはありますか。

環境問題解決は一企業だけできることではありません。多様なステークホルダーで取り組むことが必要と思っています。コロナ禍でのガイドライン(※)は大変参考になりました。このような、JEEFさんが持っている専門性を保っていただいて、今後手を携えていきたいです。

——貴重なお話をありがとうございました。

※2020年5月に自然体験活動推進協議会(CONE)、日本アウトドアネットワーク(JON)、JEEFでまとめた『自然学校等の新型コロナウイルス対応ガイドライン』

